

# ハガイ書

## 第一章

一 ダリヨス王の二年六月其月の一日にエホバの言預言者ハガイによりてシヤルテルの子ユダの方伯  
 二 ゼルバベルおよびヨザダクの子祭司の長ヨシユアに臨めりいはく 萬軍のエホバかくいひたまふ  
 三 是民はエホバの殿を建べき時期未だ來らずといへり エホバの言また預言者ハガイによりて臨めり曰く 此  
 四 殿かく毀壞をれば汝等板をもてはれる家に居るべき時ならんや されば今萬軍のエホバかく曰たまふ汝等おの  
 五 れの行爲を省察べし 汝らは多く播ども收入るところは少く食へども飽ことを得ず飲ども満足ことを得ず衣れ  
 六 ども暖きことを得ず又工價を得るものはこれを破れたる袋に入る  
 七 萬軍のエホバかく曰たまふ汝等おのれの行爲を省察べし 山に上り木を携へ來て殿を建てよさすれば我  
 八 これを悦び又榮光を受んエホバこれを言ふ なんぢら多く得んと望みたりしに反て少かりき又汝等これを家に  
 九 携へ歸りし時我これを吹はらへり萬軍のエホバいひたまふは何故ぞやは我が殿毀壞をるに汝等おのおの己の室  
 一〇 に走り至ればなり この故になんぢらの上の天は雨露を止め地はその産物を止めたり 且われ地にも山にも  
 穀物にも新酒にも油にも地の生ずる物にも人にも家畜にも手のもろもろの工にもすべて毀壞を召きかうむらしめ  
 たり

二三 シヤルテルの子ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその残れるすべての民ともに其神エホ  
 二四 バの聲と預言者ハガイの言に聽したがへり是は其神エホバかれを遣したまひしに因る民みなエホバの前に敬畏た  
 二五 り 時にエホバの使者ハガイ、エホバの命により民に告て曰けるは我なんぢらと偕に在りとエホバ曰たまふと

イ 爾四・二四、五・一  
 二 代上六・二五  
 三 代上三・一七、一九  
 四 代上三・二一、二二  
 五 代上三・二六、二七  
 六 代上三・二八、二九  
 七 代上三・三〇、三一  
 八 代上三・三二、三三  
 九 代上三・三四、三五  
 一〇 代上三・三六、三七  
 一一 代上三・三八、三九  
 一二 代上三・四〇、四一  
 一三 代上三・四二、四三  
 一四 代上三・四四、四五  
 一五 代上三・四六、四七  
 一六 代上三・四八、四九  
 一七 代上三・五〇、五一  
 一八 代上三・五二、五三  
 一九 代上三・五四、五五  
 二〇 代上三・五六、五七  
 二一 代上三・五八、五九  
 二二 代上三・六〇、六一  
 二三 代上三・六二、六三  
 二四 代上三・六四、六五  
 二五 代上三・六六、六七  
 二六 代上三・六八、六九  
 二七 代上三・七〇、七一  
 二八 代上三・七二、七三  
 二九 代上三・七四、七五  
 三〇 代上三・七六、七七  
 三一 代上三・七八、七九  
 三二 代上三・八〇、八一  
 三三 代上三・八二、八三  
 三四 代上三・八四、八五  
 三五 代上三・八六、八七  
 三六 代上三・八八、八九  
 三七 代上三・九〇、九一  
 三八 代上三・九二、九三  
 三九 代上三・九四、九五  
 四〇 代上三・九六、九七  
 四一 代上三・九八、九九  
 四二 代上三・一〇〇、一〇一  
 四三 代上三・一〇二、一〇三  
 四四 代上三・一〇四、一〇五  
 四五 代上三・一〇六、一〇七  
 四六 代上三・一〇八、一〇九  
 四七 代上三・一一〇、一一一  
 四八 代上三・一一二、一一三  
 四九 代上三・一一四、一一五  
 五〇 代上三・一一六、一一七  
 五一 代上三・一一八、一一九  
 五二 代上三・一二〇、一二一  
 五三 代上三・一二二、一二三  
 五四 代上三・一二四、一二五  
 五五 代上三・一二六、一二七  
 五六 代上三・一二八、一二九  
 五七 代上三・一三〇、一三一  
 五八 代上三・一三二、一三三  
 五九 代上三・一三四、一三五  
 六〇 代上三・一三六、一三七  
 六一 代上三・一三八、一三九  
 六二 代上三・一四〇、一四一  
 六三 代上三・一四二、一四三  
 六四 代上三・一四四、一四五  
 六五 代上三・一四六、一四七  
 六六 代上三・一四八、一四九  
 六七 代上三・一五〇、一五一  
 六八 代上三・一五二、一五三  
 六九 代上三・一五四、一五五  
 七〇 代上三・一五六、一五七  
 七一 代上三・一五八、一五九  
 七二 代上三・一六〇、一六一  
 七三 代上三・一六二、一六三  
 七四 代上三・一六四、一六五  
 七五 代上三・一六六、一六七  
 七六 代上三・一六八、一六九  
 七七 代上三・一七〇、一七一  
 七八 代上三・一七二、一七三  
 七九 代上三・一七四、一七五  
 八〇 代上三・一七六、一七七  
 八一 代上三・一七八、一七九  
 八二 代上三・一八〇、一八一  
 八三 代上三・一八二、一八三  
 八四 代上三・一八四、一八五  
 八五 代上三・一八六、一八七  
 八六 代上三・一八八、一八九  
 八七 代上三・一九〇、一九一  
 八八 代上三・一九二、一九三  
 八九 代上三・一九四、一九五  
 九〇 代上三・一九六、一九七  
 九一 代上三・一九八、一九九  
 九二 代上三・二〇〇、二〇一  
 九三 代上三・二〇二、二〇三  
 九四 代上三・二〇四、二〇五  
 九五 代上三・二〇六、二〇七  
 九六 代上三・二〇八、二〇九  
 九七 代上三・二一〇、二一一  
 九八 代上三・二一二、二一三  
 九九 代上三・二一四、二一五  
 一〇〇 代上三・二一六、二一七

二四 エホバ、シヤルテルの子ユダの方伯ゼルバベルの心とヨザダクの子祭司の長ヨシユアの心およびその残れる  
 二五 すべての民の心をふりおこしたまひければ彼等來りて其神萬軍のエホバの殿にて工作を爲り  
 二二 二年六月二十四日なりき

### 第二章

一 七月其月の二十一日エホバの言預言者ハガイによりて臨めり曰く  
 二 シヤルテルの子ユダの方伯  
 三 ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその残れる一切の民に告よ  
 四 者の中この殿の從前の榮光を見しものは誰ぞや今これを如何に見るやかの殿にくらぶれば是は汝らの目に何もな  
 五 きが如く見ゆるにあらずや  
 六 エホバ曰たまふゼルバベルよ自ら強くせよヨザダクの子祭司の長ヨシユアよ自ら  
 七 強くせよエホバ言たまふこの地の民よ自らつよくしてはたらけ我なんぢらとともに在り萬軍のエホバこれを言ふ  
 八 汝らがエジプトよりいでし時わがなんぢらに約せし言およびわが靈なほなんぢらの中に留れり懼るゝなかれ  
 九 萬軍のエホバかくいひたまふいま一度しばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動はん  
 一〇 又われ萬國を震動  
 一一 はんまた萬國の願ふところのもの來らん又われ榮光をもてこの殿に充滿さん萬軍のエホバこれを言ふ  
 一二 銀も我  
 一三 ものなり金もわが物なりと萬軍のエホバいひたまふ  
 一四 この殿の後の榮光は從前の榮光より大ならんと萬軍のエ  
 一五 ホバいひたまふこの處においてわれ平康をあたへんと萬軍のエホバいひたまふ  
 一六 一〇 ダリヨスの二年九月二十四日エホバのことは預言者ハガイによりて臨めり曰く  
 一七 萬軍のエホバかく曰た  
 一八 まふ律法につきて祭司に問ふて曰ふべし  
 一九 人衣の裾にて聖肉を携へたらんにその裾もしパン或は羹あるひは酒  
 二〇 あるひは油あるひは他の食物に捫らばそれらは聖ものとなるや祭司たち答へて曰けるはしからず  
 二一 ハガイまた

イ代下三六・二二三 八爾五・二・八  
 一・一 二爾三・二・二  
 二 亞四・一〇  
 三 亞八・九  
 四 出二九・四五、四六  
 五 尼九・二〇 賽六三  
 六 一・二六  
 七 又耳三・一六  
 八 九創四九・一〇 馬三  
 九 王約一・一四  
 一〇 詩八五・八、九路二  
 一一 二四 弗二・一四  
 一二 七  
 一三 加利一〇・一〇、一一  
 一四 申三三・一〇 馬二



